

情報提供

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 山城千秋
担当理事 宮城政剛



「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

☆ 問合せ先(那覇市医師会 事務局:前泊・上原 / 電話 098-868-7579)

.....記.....
◎ 沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。(取扱注意でお願いいたします。) 【那覇市保健所 所長 仲宗根 正】

【現状】

沖縄県では、先週(4/19-4/25)の新規陽性者数は633人(前週797人)でした。沖縄本島における週あたりの実効再生産数(R)は0.72(95%CrI:0.66, 0.78)であり、前週の1.00から低下し、明らかな減少に転じています(図1)。

世代別では、20代が最多で135人(17%)ですが、前週の163人よりも減少しており、徐々に陽性者の年齢が上昇してきています。代わって65歳以上の高齢者106人(17%)と全体に占める割合が増加しています。4月以降、高齢者施設や医療機関における集団感染が散発していることが影響しています。(図3)

図1 陽性者数の推移と実効再生産数の推定 (沖縄本島)

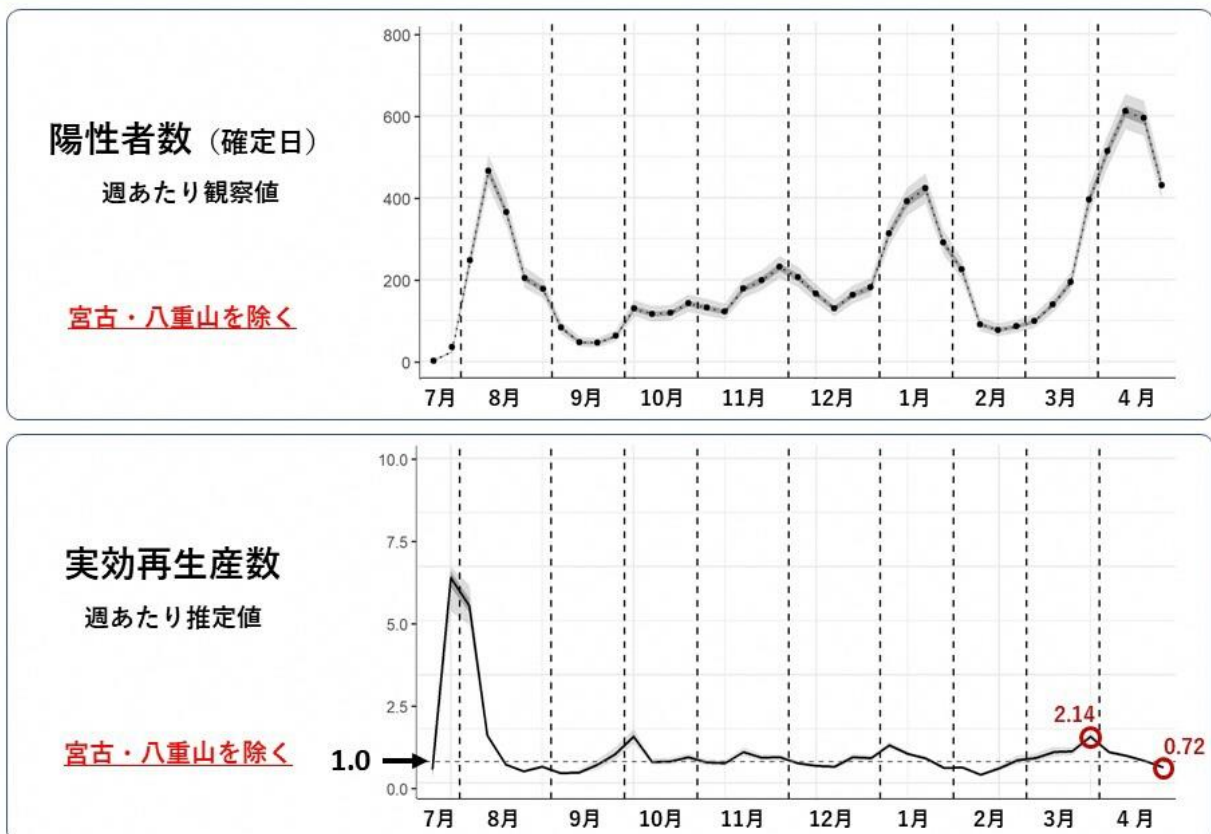
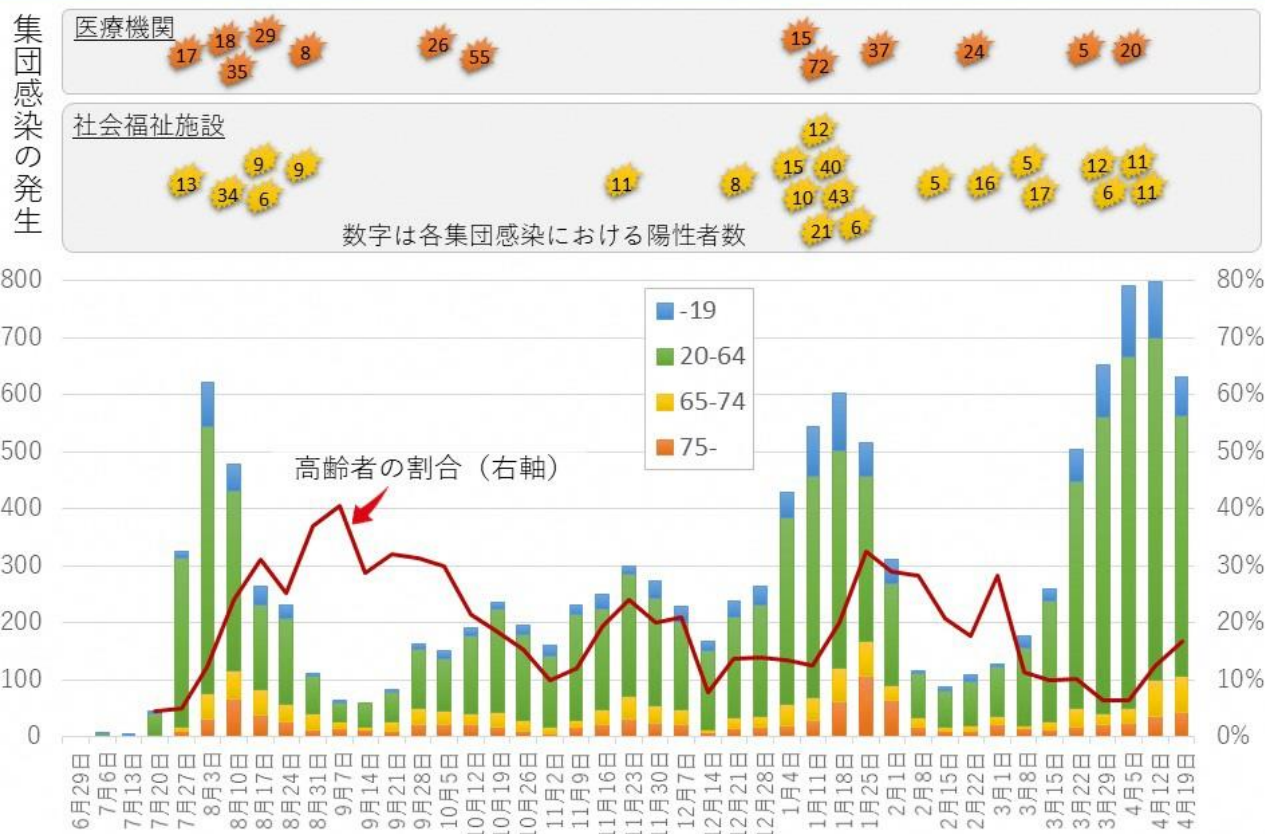


図3 年齢階級別陽性者数(週)の推移と集団感染の発生



医療圏別では、北部 31 人（前週 57 人）、中部 108 人（前週 212 人）、南部 242 人（前週 249 人）、那覇市 170 人（前週 223 人）、宮古 64 人（前週 44 人）、八重山 11 人（前週 10 人）でした。

市町村別では、多い順に、那覇市 170 人（前週 223 人）、宮古島市 64 人（前週 44 人）、浦添市 55 人（前週 77 人）、沖縄市 42 人（前週 69 人）、豊見城市 39 人（前週 39 人）でした。

陽性者数が増加したのは、宮古島市、八重瀬町、与那原町、西原町、中城村、伊江村、伊平屋村、伊是名村、竹富町で、すべて重点措置の対象でなかった市町村です。一方、重点措置が取られている9市のうち7市では減少しており、2市は同数でした。重点措置が拡大を抑えている一方で、それ以外の地域に拡散している様子が伺えます。

先週の陽性者のうち、変異ウイルス（N501Y）を同定する検査が実施されたのは183 検体（前週 46 検体）で、このうち70 検体（前週 38 検体）がN501Y 陽性で、陽性率 38%（前週 26%）とさらに上昇しています。県全体で陽性者は減少していますが、絶対数で見ると変異ウイルスの陽性者は増加していると推定されます。

入院患者数は、4月18日 284 人から4月25日 286 人へと横ばいでした。4月22日 292 人がピークだったと考えられます。新規陽性者のピークを迎えてから、入院患者のピークを迎えるまでの期間は、今回も10 日間でした。

【推定】

新規陽性者数は減少に転じていますが、変異ウイルスの勢いは衰えていません。従来型のウイルスからの置き換わりが進むことで、現状の対策のままであれば、5 月初旬に増加へと転じるものと考えられます。大型連休において、ウイルスの持ち込みが増えると、その流行規模はかなり大きくなることも想定されます。

今週（4/26-5/2）の新規陽性者数は400-600 人と推定します。変異ウイルスによる流行が始まれば、700 人を超えて加速するかもしれません。高齢者の割合が増加するため、今週末の入

院患者数は 270-300 人と変化は乏しく、このうち気管挿管等が行われる重症患者数は 11-1 人と見込まれます。ただし、医療機関や高齢者施設における集団感染が発生した場合には、これらを大きく上回る可能性があります（図 6）。

【解説】

沖縄県では、3月29日より緊急特別対策が開始され、4月12日より本島内9市に対する重点措置が実施されています。4月22日には、宮古島市が重点措置の対象地域に追加されました。

その結果、4月12日をピークにして新規陽性者数が減少に転じています。ただし、重点措置が実施されていない地域では増加が続いており、那覇市は高いレベルで持続流行しています。県全体でみると、決して封じ込められているわけではありません。

また、従来型のウイルスは減少していても、変異ウイルスは増加している可能性があります。とくに、宮古島の流行は変異ウイルスによるものです。那覇市を含む南部も変異ウイルスへと置き換わりつつあります。大型連休における渡航者の増加も見込まれるなか、再流行へと転じる可能性は十分にあります。局所的に穏やかな対策を続けるよりは、強力な対策を全県的にとるべき状況です。

本土で大きな流行が生じているあいだは、沖縄への渡航は控えていただいた方が良くと考えられます。ただし、ホテルライフ中心の観光渡航については、感染拡大のリスクは高くありません。一方で、東京、大阪などの居酒屋が休業していることもあり、飲酒や接待を目的とした渡航が増加することも考えられます。渡航に対する認証制度を含めた、何らかの対策が求められます。

全国的に、比較的若い年齢層における重症例が増加しています。これは、変異ウイルスによる影響と考えられています。沖縄県においても、30代や40代の感染者が気管挿管となる事例が多発しています。その背景として、少なからず肥満や糖尿病が認められ、受診の遅れによる死亡例も発生しています。

高齢者に限らず、該当する方に発熱や咳などを認めたときは、検査結果によらずコロナに感染したかもしれないと考えてください。そして、息切れや息苦しさがあるときは、早めに受診するようにしてください。部屋でじっと寝ていても気づかないことがあります。部屋の中を2、3往復してみてください。もし、途中で息切れがしたり、頭がボーとしてくるようだったら、早めの受診をお勧めします。

見守るご家族がいるときは、ご本人が息苦しさを訴えていないか見守ってあげてください。顔色が悪いとか、いつもと様子がおかしい、声掛けしても返事が鈍いといったことも危険信号となります。ご飯が食べられないというのも大事な兆候です。こうしたとき、最初は電話でも構いませんので、医師に相談するようにしてください。

高齢者へのワクチン接種が始まっています。いまは一部の市町村ですが、順次、すべての高齢者へとワクチン接種の案内が郵送されます。独居もしくは高齢者のみの世帯では、役場からの郵便物に気づけないことも考えられます。また、予約の電話などができないかもしれません。

親族や近隣の住民の方は、そうした高齢者がワクチン接種の機会を逃すことのないよう、サポートをお願いします。高齢者の7～8割が接種に協力いただければ、重症化する患者が減少して医療崩壊の危機が回避されるばかりか、高齢者施設やデイサービスにおける集団免疫（接種していない人も感染から守られる状態）も期待できます。

地域における流行を変異ウイルスもろとも封じ込めながら、高齢者へのワクチン接種を堅実に進めるべき局面にあります。

以上です。